

平成31年度 看護学部2学年シラバス（後期）

<後期>

英語Ⅱ 後期A	…P1～6
〃 後期B	…P7～12
病態診断治療学	…P13～18
看護実践を支える看護技術とアセスメントⅢ	…P19～24
基礎看護学実習Ⅱ	…P25～30
地域を理解する実習	…P31～36
成長発達に合わせた健康の維持・増進に関する看護Ⅱ	…P37～45
家族看護論	…P46～50
地域看護学Ⅰ	…P51～56
健康障害をもつ高齢者の看護Ⅰ	…P57～62

区分名：表現力を培う

科目名（英語名称含む）：英語 2 後期 A グループ (English 2)

教員名：中山 仁

開講年次：2年次，学 期：2019年度 後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：演習 ， 単位数：2単位 ， 時間数：60時間

概要：医療英語に関する記事などを読んで、看護・医療の分野で使われる英語の語彙や表現について学ぶ。授業では、(1)医療に関連する語彙・表現を覚える演習、(2)ニュースなどのリスニング・リーディングを通して、内容理解に必要な文法や構文を理解するための演習を行う。また、(3)英文の内容を通して、最近の医療事情について理解を深める。

学習目標：1)基本的な医学用語を正しく発音し、その意味が理解できる。

2)習得した医学用語に基づいて、派生語や類義語の発音・意味を理解できる。

3)医療英語に関する記事のキーワードを読み取ることができる。

4)英語の文法と文章構成のパターンに基づいて、英文を正確に読み取ることができる。

5)英文を問題意識を持って読むことができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	-	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		

3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		

2)	チームでの コミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		

3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	—	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					

<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：教室で指示する。

参考書：1) 一般語でより豊富な語彙を求める場合：『リーダーズ英和辞典』（研究社）

2) 専門用語の理解のために：『ステッドマン医学大辞典』（メジカルビュー社）
 成績評価方法：演習点、定期試験および授業の準備状況、授業への参加度・貢献度等を総合して評価する。

その他（メッセージ等）：読む英文の量が増え、専門性が高くなります。しっかりと準備を

して授業に臨んで下さい。医学用語の独特の発音とともにたくさんの語を覚え、英語を通して医療の知識や関心がさらに高まることを期待しています。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容 (キーワード等)
第1回	Course Overview	Warm-up Exercises
第2回	医療・看護に関する記事 (1)	リスニング・リーディング・発音練習
第3回	医療・看護に関する記事 (2)	リスニング・リーディング・発音練習
第4回	医療・看護に関する記事 (3)	リスニング・リーディング・発音練習
第5回	医療・看護に関する記事 (4)	リスニング・リーディング・発音練習
第6回	医療・看護に関する記事 (5)	リスニング・リーディング・発音練習
第7回	医療・看護に関する記事 (6)	リスニング・リーディング・発音練習
第8回	医療・看護に関する記事 (7)	リスニング・リーディング・発音練習
第9回	医療・看護に関する記事 (8)	リスニング・リーディング・発音練習
第10回	医療・看護に関する記事 (9)	リスニング・リーディング・発音練習
第11回	医療・看護に関する記事 (10)	リスニング・リーディング・発音練習
第12回	医療・看護に関する記事 (11)	リスニング・リーディング・発音練習
第13回	医療・看護に関する記事 (12)	リスニング・リーディング・発音練習
第14回	医療・看護に関する記事 (13)	リスニング・リーディング・発音練習
第15回	医療・看護に関する記事 (14)	リスニング・リーディング・発音練習
第16回	医療・看護に関する記事 (15)	リスニング・リーディング・発音練習
第17回	医療・看護に関する記事 (16)	リスニング・リーディング・発音練習
第18回	医療・看護に関する記事 (17)	リスニング・リーディング・発音練習
第19回	医療・看護に関する記事 (18)	リスニング・リーディング・発音練習
第20回	医療・看護に関する記事 (19)	リスニング・リーディング・発音練習
第21回	医療・看護に関する記事 (20)	リスニング・リーディング・発音練習
第22回	医療・看護に関する記事 (20)	リスニング・リーディング・発音練習
第23回	Review Quiz	まとめ

区分名： コミュニケーション

科目名： 英語 2 後期 B グループ (English 2B)

教員名： 亀田政則

開講年次： 2 年次, 学期：2019 年度後期 必修

授業形態：演習, 単位数：1 単位 , 時間数：60 時間

概要：現代における「健康と医療をめぐるトピックス」にかんする英文記事の効率的読解。

学習目標：

1. 数学の英語について、基礎的知識を身につける。
2. 健康や医療にかんする専門用語の分析・構成法についての知識を身につける。
3. 英文の論理構成を分析し、効率的な読解ができるようになる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	-	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	-	修得の機会がない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	-	修得の機会がない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	-	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		

2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	-	修得の機会がない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	o	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		

		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					

1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	-	修得の機会がない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	-	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		

2)	福島からの災害から学ぶ	①	福島で起こった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト： Stapleton P. (2009) Stay Healthy, London: Cengage.

参考書： 英英辞書

成績評価方法： 授業演習点（20%）＋学期末試験（80%）

その他（メッセージ等）：

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	演習の概要と成績評価	数学の英語：基礎的知識と演習による理解
第2回	医療・看護に関する記事（1）	リスニング・リーディング（英文内容把握のための英語によるQ & A）
第3回	医療・看護に関する記事（2）	リスニング・リーディング（英文内容把握のための英語によるQ & A）
第4回	医療・看護に関する記事（3）	リスニング・リーディング（英文内容把握のための英語によるQ & A）
第5回	医療・看護に関する記事（4）	リスニング・リーディング（英文内容把握のための英語によるQ & A）
第6回	医療・看護に関する記事（5）	リスニング・リーディング（英文内容把握のための英語によるQ & A）

第7回	医療・看護に関する記事 (6)	リスニング・リーディング (英文内容把握のための英語による Q & A)
第8回	医療・看護に関する記事 (7)	リスニング・リーディング (英文内容把握のための英語による Q & A)
第9回	医療・看護に関する記事 (8)	リスニング・リーディング (英文内容把握のための英語による Q & A)
第10回	医療・看護に関する記事 (9)	リスニング・リーディング (英文内容把握のための英語による Q & A)
第11回	医療・看護に関する記事 (10)	リスニング・リーディング (英文内容把握のための英語による Q & A)
第12回	医療・看護に関する記事 (11)	リスニング・リーディング (英文内容把握のための英語による Q & A)
第13回	医療・看護に関する記事 (12)	リスニング・リーディング (英文内容把握のための英語による Q & A)
第14回	医療・看護に関する記事 (13)	リスニング・リーディング (英文内容把握のための英語による Q & A)
第15回	医療・看護に関する記事 (14)	リスニング・リーディング (英文内容把握のための英語による Q & A)
第16回	医療・看護に関する記事 (15)	リスニング・リーディング (英文内容把握のための英語による Q & A)
第17回	医療・看護に関する記事 (16)	リスニング・リーディング (英文内容把握のための英語による Q & A)
第18回	医療・看護に関する記事 (17)	リスニング・リーディング (英文内容把握のための英語による Q & A)
第19回	医療・看護に関する記事 (18)	リスニング・リーディング (英文内容把握のための英語による Q & A)
第20回	医療・看護に関する記事 (19)	リスニング・リーディング (英文内容把握のための英語による Q & A)
第21回	医療・看護に関する記事 (20)	リスニング・リーディング (英文内容把握のための英語による Q & A)
第22回	医療・看護に関する記事 (20)	リスニング・リーディング (英文内容把握のための英語による Q & A)
第23回	学期末試験	

区分名： 人間の身体機能と病態を理解する

科目名 (英語名称含む) : 病態診断治療学【看護2】 (Pathophysiology, including diagnosis and treatment)

教員名： 太田昌一郎

開講年次： 2年次, 前学期：2019年度 後期 , 必修/選択：必須

授業形態：講義 , 単位数：2.0単位 , 時間数：45時間

概要：循環器系、消化器系、代謝内分泌系、腎泌尿器系などの臓器や組織における病態と診断、治療、予後などを学習し、それぞれの疾患の特性を理解する。治療については、薬物療法、外科的治療、緩和ケアにも言及する。基礎医学と看護専門科目への橋渡しとなるような内容に心がける。

学習目標：血液・造血器疾患、消化器疾患、代謝疾患、内分泌疾患、循環器疾患、腎・泌尿器疾患、免疫アレルギー疾患、呼吸器疾患、感染症、神経系疾患の代表的な疾患について、

- 1) 主要症状と兆候を列挙し、その病態を説明できる
- 2) 主な診断方法と治療法を説明できる
- 3) 各疾患の予後を理解し、看護の関わり方を理解説明できる

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	—	修得の機会がない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		

3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	—	修得の機会がない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	—	修得の機会がない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが単位の認定には関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)		①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	修得の機会はあるが単

	チームでのコミュニケーション	②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		位の認定には関係ない
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	△	修得の機会はあるが単位の認定には関係ない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践	①	看護実践の応用となる科目	◎	看護の一部として実践

	能力を備えた看護専門職者	②	看護の実践		できることが単位認定の要件である
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	修得の機会はあるが単位認定には関係ない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					

(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会はあるが単位認定には関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会はない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線(および災害)に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会はあるが単位認定には関係ない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：特に用いない 教員作成の資料、プレゼンテーションを用いる

参考書：加園恵三著 症例人間病態論 京都廣川書店、加園恵三、太田昌一郎共著 症例人間病態論 Vol.2 京都廣川書店

成績評価方法：期末筆記試験、理解度を確認するため、小テストを随時施行することがある

その他(メッセージ等)：解剖学、病理学を理解していることを前提に講義を行う。近年の国家試験で取り上げられた項目については、随時講義内で触れる。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	病態を学ぶ前に	オリエンテーション、疾患の概念、診断学の概念につ

	主な検査値の読み方	いて 血液検査、貧血の診断、炎症性疾患、主な生化学検査の項目について
第2回	血液・造血器疾患	血液検査、貧血の診断、炎症性疾患、主な生化学検査の項目について、血液悪性疾患、線溶凝固異常、など
第3回	呼吸器疾患	検査法、閉塞性・拘束性肺疾患、呼吸器感染症 肺腫瘍、気管支喘息、胸膜疾患など
第4回	循環器疾患(1)	基礎的事項、心不全、不整脈、先天性心疾患
第5回	循環器疾患(2)	弁膜症、虚血性心疾患、心筋疾患、心膜疾患、血圧異常、脈管疾患、ショック
第6回	消化器疾患	分類、主な症候、上部消化管良性疾患、悪性腫瘍、特発性炎症性大腸炎、下部消化管悪性腫瘍など
第7回	肝臓・胆道・膵臓疾患	主な症候、肝炎の原因と病態、肝硬変、肝細胞がん、劇症肝炎、肝臓疾患続き、薬物療法、肝移植 胆石症、急性膵炎、慢性膵炎、膵臓がん、など
第8回	腎・泌尿器疾患	腎炎の分類、ネフローゼ症候群、糸球体腎炎、慢性腎不全、急性腎不全、泌尿器科疾患、良性疾患、悪性腫瘍、排泄ケアなど など
第9回	代謝・栄養疾患	生活習慣病とは、肥満、糖尿病、骨粗鬆症、痛風、腫瘍崩壊症候群など
第10回	内分泌疾患	視床・下垂体系、下垂体・性腺系、ネガティブフィードバックなど調整機構、甲状腺疾患、二次性高血圧、カルシウム代謝異常など
第11回	感染症	法規、予防、治療薬 HIV 感染症、ウイルス感染症、原虫・寄生虫疾患、真菌感染症、クラミジア、リケッチアなど
第12回	膠原病、アレルギー疾患	薬剤アレルギー、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、蕁麻疹、関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、多発性筋炎など
第13回	精神・神経疾患	うつ病、統合失調症、薬物依存症、認知症、パーキンソン病、てんかんなど
第14回	脳血管障害、移植医療	脳梗塞、脳出血、各種治療、臓器移植、骨髄移植など
第15回	緩和ケア	痛みの生理学、オピオイドの使い方、WHO ラダー、ホスピスなど

区分名：

科目名（英語名称含む）：看護実践を支える看護技術とアセスメントⅢ（Nursing skills and assessment as the foundation nursing practice Ⅲ）

教員名：田中啓子 川島理恵 丸山育子 林紋美

開講年次：2年次，学 期：2019年度 後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：演習 ， 単位数：2単位 ， 時間数：45時間

概要：看護学は、実践の学問です。授業は病床を想定した実習室において行い、学生が互いに患者役看護者役を体験して、看護技術の基本を学びます。看護者は看護技術の提供において、様々な視点から対象を把握し、看護の必要性をアセスメントし、個別性を踏まえながら方法を考えます。この一連のプロセスでは、客観的な根拠(evidence)に基づいて考えることが大切です。「何故そのように行うか」と「どのように行うか」の双方に着目しながら複数の教員と共に看護の基本を学びます。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

1. 脳神経の障害が人間の生活に与える影響について説明することができる。
2. 脳神経に関するフィジカルイグザミネーションの基本を実践することができる。
3. 呼吸器の障害が人間の生活に与える影響について説明することができる。
4. 呼吸器に関するフィジカルイグザミネーションの基本を実践することができる。
5. 呼吸障害のある方の呼吸を整えるための基本的な技術を実践することができる。
6. 薬物療法を受ける対象に関わる看護者の役割について説明することができる。
7. 看護者が実施する注射法の範囲を踏まえ、基本的な技術を実践することが出来る。
8. 意識レベルのアセスメントの基本を実践することが出来る。
9. 一時救命処置の基本を実践することができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル	
1. プロフェッショナル				
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。				
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○ 態度、習慣、価値観を模擬

		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		的に示せることが単位認定の条件である
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の条件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の条件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の条件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					

自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルなどを示せることが単位認定の条件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	-	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		

		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場 に知識を応 用できるこ とが単位認 定の要件で ある
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会 がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	修得の機会 はあるが、 単位認定に 関係はない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		

		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会が無い
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会が無い
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					

1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：指定はありません。

参考書：配布資料に記載します。

成績評価方法：筆記試験、実技試験、授業への取り組みを総合して評価します。

その他（メッセージ等）：対象に沿った看護を実践するためには、対象の状態をアセスメントする能力と技術力が必要です。技術を習得するには、繰り返し練習する必要があります。学生同士で互いに刺激しながら、また、教員も活用しながら共に学んでいきましょう。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1・2・3回	脳神経のアセスメント	物を見る(第2・3・4・6脳神経)その①
第4・5・6回	脳神経のアセスメント	物を見る(第2・3・4・6脳神経)その②
第7・8・9回	脳神経のアセスメント	顔や口腔・鼻腔の感覚、表情をつくる(第5・7脳神経)
第10・11・12回	脳神経のアセスメント	物を嗅ぐ、音や声を聞く(第1・8脳神経)
第13・14・15回	脳神経のアセスメント	食べる(第9・10・12脳神経)
第16・17・18回	呼吸機能の看護技術とアセスメント	呼吸介助
第19・20・21回	呼吸機能の看護技術とアセスメント	酸素ボンベの取り扱い
第22・23・24回	呼吸機能の看護技術とアセスメント	気道内吸引
第25・26・27回	呼吸機能の看護技術とアセスメント	呼吸のアセスメントと看護(グループワーク)
第28・29・30回	薬物療法に伴う看護技術	薬物の特徴 薬物療法を受ける対象に関わる看護者の役割
第31・32・33回	薬物療法に伴う看護技術	注射法(注射法の特徴と注射薬の準備)
第34・35・36回	薬物療法に伴う看護技術	注射法(皮下注射)

第 37・38・39 回	薬物療法に伴う看護技術	注射法(点滴静脈内注射の準備と実施)
第 40・41・42 回	薬物療法に伴う看護技術	注射法(筋肉内注射)
第 43・44・45 回	救命救急処置	意識状態のアセスメント 一次救命処置

区分名：看護の基本となる科目

科目名(英語名称含む)：基礎看護学実習Ⅱ(fundamental nursing clinical practicumⅡ)

教員名：丸山育子 木下美佐子 佐藤博子 川島理恵 堀内輝子 田中啓子 林紋美

開講年次：2年次, 学 期：2019年度 後期 , 必修/選択：必修

授業形態：実習, 単位数：2単位 , 時間数：90時間

概要：本実習は、健康問題を抱え、治療や検査を受けている方を受け持ち、2週間を通して対象を理解しながら、看護を実際に提供します。看護を提供するために不可欠な看護実践のプロセスを踏み看護実践の基礎的な力を培います。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

- (1) 対象の生活に着目し、系統立てて看護実践のプロセスを展開できる思考力を培う。
- (2) 対象の生活に着目し、系統立てて看護実践のプロセスを展開できる実行力を培う。
- (3) 看護の展開を通して、対象の視点を大切にしながら自分自身の看護観を深める。
- (4) 専門職として自律する姿勢を身につける。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の条件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		

		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		示せることが単位認定の条件である
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の条件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の条件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					

自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	-	修得の機会はない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		

		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	◎	看護の一部として実践できることが単位認定要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会はない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		

		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					

1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：指定しない。

参考書：適宜提示する。

当該実習総時間数の 5分の4以上出席しなければ単位認定を受けることができない。

実習評価は実習内容・実習態度・記録を統合して行う。評価配点は実習要項に記載する。

その他（メッセージ等）：担当した方に初めて看護のプロセスを展開する実習です。担当した方に、自分に何かできるかを系統的に考え実践した経験からは多くのことが学べます。

授業内容(学習項目)

1 グループ5名程度、各グループに1名の教員が担当します。

詳細は実習要項にて提示します。

区分名： 看護の基礎となる科目

科目名(英語名称含む):地域を理解する実習【看護2】(Community Health Nursing Practice)

教員名： 阿久津和子、高橋香子、高瀬佳苗、古戸順子、秦暁子、鹿俣律子

開講年次：2年次，学 期：2019年度 後期 ， 必修/選択：必修

授業形態：実習 ， 単位数：1単位 ， 時間数：45時間

概要：地域を理解する実習では、健康指標、保健医療福祉制度、そのほか健康に関連する統計、地域の人々の健康に関する考え方やニーズなどを統合して地域全体を捉えることの重要性を理解するために、保健所を中心とした実習を行う。また、地域の健康課題に対して展開される地域保健活動の実際を理解し、その意義や課題について考える。保健師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

- 1) 地域を理解するための健康指標、保健医療福祉制度、健康に関連する統計資料などを統合し、地域の特徴を理解できる。
- 2) 地域に生活する人々の健康水準が理解できる。
- 3) 地域保健活動の特徴について理解できる。
- 4) 地域における看護活動の場所、活動内容の特徴が説明できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	◎	実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	◎	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		

		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	◎	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	◎	実践できることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		

2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	●	〃
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	-	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	◎	看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		

3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					

<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会があるが単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線(および災害)に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

成績評価方法：出席日数、実習への取り組み、カンファレンスへの参加状況、実習記録、レポートにより総合的に評価する。

その他(メッセージ等)：「地域の理解」や「地域看護学Ⅰ」の授業内容を関連づけながら学びましょう。実習施設によっては、宿泊する必要があります。

授業内容(学習項目)

1)実施方法

- ・保健所を中心として1週間(5日間)の実習を行う。
- ・3~8人を1つのグループとして各施設で実習を行う。

2)実習内容

- ・管轄市町村の地区把握をする。
- ・所内保健事業や、管轄地域内の市町村・産業・学校等の保健事業に参加する。
- ・保健所の業務・役割を理解する。

区分名：看護実践の基盤となる科目

科目名（英語名称含む）：成長発達に合わせた健康の維持・増進に関する看護2 【看護2】

教員名：古戸順子、阿久津和子、秦暁子、和田久美子、太田操、脇屋友美子、佐々木千佳、大川貴子、渡邊一代

開講年次：2年次，学 期：2019年度 後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：講義・演習 ， 単位数：3.0単位 ， 時間数：60時間

概要：ヘルスプロモーションの考え方や、対象の発達課題と健康課題に応じたヘルスプロモーション活動の方法について学ぶ。個人・家族・集団などに対する健康教育（患者教育）・健康相談に必要な支援方法を学ぶ。

看護師、保健師、助産師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

（一般目標）ヘルスプロモーション、健康教育（患者教育）・健康相談について理解できる。

- （行動目標）
1. ヘルスプロモーションについて説明できる。
 2. 保健行動に関する理論やモデルが説明できる。
 3. 対象の発達段階に応じた保健行動が列挙できる。
 4. 対象の発達段階と健康課題に応じた健康教育の企画・立案ができる。
 5. 立案した健康教育企画を学生間で模擬演習を行い、その健康教育企画の効果・実行可能性について評価（自己・他者）を行うことができる。
 6. 健康相談を行う上での基本的知識および態度を習得する。
 7. 健康相談の模擬演習で対象の健康課題を心理的・身体的・社会的状況から捉えることができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル
1. プロフェッショナル			
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。			
1)	看護倫理	① 生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。 ② 生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。	○ 態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である

2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュ	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		

	コミュニケーション	③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		定の要件である。
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基盤となる知識を示せることが単
		②	人間の理解を深める科目		

		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		位認定の要件である
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	看護の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		

		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	-	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	-	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：指定しない。

参考書：舟島なをみ：看護のための人間発達学（第5版）．医学書院．2011.

荒賀直子・後閑容子編：公衆衛生看護学. jp 第4版データ更新版. インターメディカル. 2017.

伊藤まゆみ編：看護に生かすカウンセリングⅠ コミュニケーションスキル 対象の生き方を尊重した健康支援のためのアプローチ. ナカニシヤ出版. 2014.

成績評価方法：出席日数、講義・演習への取り組み姿勢、提出物、筆記試験の総合評価

その他（メッセージ等）：対象にとって、より質の高い生活を過ごせるための基本的な支援方法を習得しましょう。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	ガイダンス・健康の概念 ＜担当：地域看護学＞	WHOの定義、ウェルネス、フィットネス
第2回	健康のモデル ＜担当：地域看護学＞	健康のモデル
第3回	ヘルスプロモーション と看護の役割り ＜担当：地域看護学＞	プライマリ・ヘルス・ケア、ヘルスプロモーション、 健康の決定要因、看護の役割り
第4回	子どもの健康づくり① ＜担当：小児看護学＞	子どものヘルスプロモーション
第5回	子どもの健康づくり② ＜担当：小児看護学＞	成長発達評価
第6回	子どもの健康づくり③ ＜担当：小児看護学＞	子どもの生活習慣病、感染予防
第7回	子どもの健康づくり④ ＜担当：小児看護学＞	子どものセーフティプロモーション（事故予防）
第8回	成人期の健康づくり① ＜担当：成人看護学＞	成人期にある学生自身の健康維持行動計画立案と実施評価演習 ①ガイダンス
第9回	成人期の健康づくり② ＜担当：成人看護学＞	成人期にある学生自身の健康維持行動計画立案と実施評価演習 ②計画立案
第10回	女性の健康づくり① ＜担当：母性看護学＞	ライフサイクルにおける性と生殖に関する課題
第11回	女性の健康づくり② ＜担当：母性看護学＞	〃
第12回	女性の健康づくり③ ＜担当：母性看護学＞	〃

第13回	高齢者の健康づくり① ＜担当：老年看護学＞	高齢期を生きる
第14回	高齢者の健康づくり② ＜担当：老年看護学＞	高齢者の社会参加，高齢者とのコミュニケーション
第15回	高齢者の健康づくり③ ＜担当：老年看護学＞	高齢者体験
第16回	高齢者の健康づくり④ ＜担当：老年看護学＞	まとめ
第17回	成人期の健康づくり③ ＜担当：成人看護学＞	成人期にある学生自身の健康維持行動計画立案と実施評価演習 ③結果の分析と評価
第18回	成人期の健康づくり④ ＜担当：成人看護学＞	成人期にある学生自身の健康維持行動計画立案と実施評価演習 ④結果の分析と評価の共有
第19回	成人期の健康づくり⑤ ＜担当：成人看護学＞	成人期にある学生自身の健康維持行動計画立案と実施評価演習 ⑤学びと課題についてレポートする
第20回	生涯を通じた心の健康づくり① ＜担当：精神看護学＞	アサーショントレーニング
第21回	生涯を通じた心の健康づくり② ＜担当：精神看護学＞	アサーショントレーニング
第22回	生涯を通じた心の健康づくり③ ＜担当：精神看護学＞	動機付け面接法
第23回	生涯を通じた心の健康づくり④ ＜担当：精神看護学＞	動機付け面接法
第24回	健康教育とは、健康教育プログラム ＜担当：地域看護学＞	健康教育とは、健康教育のプログラム、媒体、予算評価
第25回	女性の健康づくり④ ＜担当：母性看護学＞	「生と性の健康教室」の紹介
第26回	健康教育・保健指導に関する理論、モデル ＜担当：地域看護学＞	プリシード・プロシードモデル，行動変容ステージモデル，保健信念モデル，自己効力感

第 27 回	地域住民を対象とした健康教育の企画 ＜担当：地域看護学＞	健康教育の企画（ニーズアセスメント、目的、目標設定、企画方法）、演習の進め方
第 28 回	地域住民を対象とした健康づくり①	（演習）健康教育の企画
第 29 回	地域住民を対象とした健康づくり②	（演習）健康教育の企画
第 30 回	地域住民を対象とした健康づくり③	〃
第 31 回	地域住民を対象とした健康づくり④	〃
第 32 回	地域住民を対象とした健康づくり⑤	〃
第 33 回	地域住民を対象とした健康づくり⑥	〃
第 34 回	地域住民を対象とした健康づくり⑦	〃
第 35 回	地域住民を対象とした健康づくり⑧	（演習）健康教育の媒体作成
第 36 回	地域住民を対象とした健康づくり⑨	〃
第 37 回	地域住民を対象とした健康づくり⑩	健康教育の実施（発表）
第 38 回	地域住民を対象とした健康づくり⑪	〃
第 39 回	地域住民を対象とした健康づくり⑫	〃
第 40 回	地域住民を対象とした健康づくり⑬	健康教育の評価
第 41 回	健康相談とは ＜担当：地域看護学＞	健康相談の定義、ヘルスカウンセリング
第 42 回	健康相談の方法 ＜担当：地域看護学＞	健康相談の方法
第 43 回	健康相談の実際① ＜担当：地域看護学＞	地域住民を対象とした健康相談ロールプレイ

第 44 回	健康相談の実際② ＜担当：地域看護学＞	〃
第 45 回	まとめ	対象の発達課題と健康課題に応じたヘルスプロモーション活動、授業のまとめ

区分名：看護実践の応用となる科目

科目名（英語名称含む）：家族看護論（Family Nursing）

教員名：中村 由美子

開講年次：2年次，学 期：2019年度 後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：演習 ， 単位数：1単位 ， 時間数：30時間

概要：

看護における援助方法とりわけ家族をシステムとしてとらえ1つの単位として援助する重要性和
家族看護に

おける看護の役割を理解し、対象である患者・家族が抱える健康問題を解決するために必要な
論理的な思

考力と適切な看護を実践できる能力を身につける。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：

- (1) 家族援助における基本的な考え方について修得する。
- (2) 家族システム看護におけるアセスメントや援助方法について修得する。
- (3) 多様な家族のありようを理解し、それをふまえた援助について修得する。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模倣的示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	"
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	"
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	"
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					

看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	態度、習慣、価値観を模範的示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	模擬的な場面に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	〃
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		

		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探索し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					
(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	-	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	-	〃

		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	-	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：

特になし

参考書：

- ・法橋尚宏編著：「新しい家族看護学」，メヂカルフレンド社，2010.
- ・小林奈美著：「グループワークで学ぶ家族看護論第2版」医歯薬出版株式会社，2011年

成績評価方法：

定期テストにて評価する。

その他（メッセージ等）：

- ・看護学の各領域に関連する科目のため、既習の知識を活用しながらそれらを統合し、主体的な学習姿勢で臨んで下さい

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回 10月9日	1. 家族援助の展開方法 1)様々な家族援助の方法について	家族援助とは エンパワーメントモデル 渡部式モデル
第2回 10月16日	2. 家族援助の具体的な展開方法 1)家族システム看護を用いた看護実践； カルガリー家族アセスメント・介入モデルとは	家族システム看護 カルガリー家族アセスメント・介入モデル(CFAM CFIM)
第3回 10月23日	2)家族援助の具体的な展開方法 カルガリー家族アセスメント・介入モデルを用いた実践	ビリーフ， カルガリー家族アセスメントモデル
第4回 10月30日	3)家族援助の具体的な展開方法 カルガリー家族アセスメント・介入モデルを用いた実践①	カルガリー家族介入モデル， イルネス・ビリーフモデル
第5回	4)家族援助の具体的な展開方法	15分インタビュー

11月20日	カルガリー家族アセスメント・介入モデルを用いた実践②	
第6回 11月27日	小児看護領域における家族看護	小児とその家族
第7回 12月4日	母性看護領域における家族看護と女性	母子とその家族. 女性とその家族, 家族看護
第8回 12月11日	精神看護領域における家族看護	精神疾患をもつ患者とその家族, 家族看護
第9回 12月12日	在宅看護領域における家族看護	在宅療養患者とその家族, 家族看護
第10回 1月8日	成人看護領域における家族看護	成人とその家族, 家族看護
第11回 1月15日	まとめ	家族看護の未来、課題
第12回 1月22日	まとめ(試験を含む)	試験

※第1回～11回：Ⅰ・Ⅱ限目（8：40-9：40、9：50-10：50）

ただし、第9回：Ⅵ・Ⅶ限目（15：20-16：20、16：30-17：30）

第12回：Ⅱ限目（9：50-10：50）のみ

区分名： 看護実践の応用となる科目

科目名（英語名称含む）： 地域看護学Ⅰ（Community Health NursingⅠ）

教員名： 阿久津和子

開講年次： 2年次，学 期：2019年度 後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：講義演習 ， 単位数：2単位 ， 時間数：45時間

概要：この科目では、地域で生活する様々な健康水準の人々（個人および家族、集団、コミュニティ）を対象とした地域看護活動に必要な地域診断について、演習を通して学習します。そして、地域診断を基礎とした行政、学校、産業の各活動場所における保健師、産業（職域）看護師、養護教諭の活動の実際について具体的に学びます。

保健師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標（一般）：

- 1) 地域看護活動における地域診断とは何かについて学ぶ。
- 2) 地域看護活動における地域診断の実践的な手法について学習する。
- 3) 地域診断を基盤とする行政、学校、産業の場における地域看護活動について学ぶ。

学習目標（行動）：

1. 地域診断の目的、意義、必要性を述べることができる。
2. 既存のデータ等を用いて地域診断の過程を修得することができる。
3. 地域診断に基づいて健康問題を明確にし、説明することができる。
4. 地域診断に基づいた地域看護活動の方法について述べることができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル	
1. プロフェッショナル				
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。				
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	— 修得の機会がない

		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		

2. 生涯学習

看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。

1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		

3. 人間関係の理解とコミュニケーション

自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。

1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	-	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		

2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	—	修得の機会がない
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	○	模擬的な場で実践できることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		

5. 看護の実践

人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。

1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		

		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	○	理解と計画立案が単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識

		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。	を示せることが単位認定の要件である
--	--	---	-------------------------------------	-------------------

テキスト：標美奈子他：標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論 医学書院

参考書：荒賀直子・後閑容子編：公衆衛生看護学 jp 第 4 版. インターメディカル
国民衛生の動向 2018/2019 厚生労働統計協会

金川克子, 早川和生監訳：コミュニティ・アズ・パートナー

地域看護学の理論と実際 第 2 版 医学書院.

成績評価方法：出席状況、講義・演習への参加度、筆記試験、課題提出物による総合評価

その他（メッセージ等）： 地域アセスメントの展開過程の学習においてグループワークを取り入れていますので主体的に臨み、また欠席することのないよう体調管理に留意しましょう。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容（キーワード等）
第 1 回	公衆衛生看護活動の考え方	公衆衛生看護活動、目的、特徴
第 2 回	地域診断の展開過程①	展開過程、地域診断の対象、
第 3 回	地域診断の展開過程②	情報収集、量的・質的データ
第 4 回	地域診断の展開過程③	データ整理・分析
第 5 回	地域診断の展開過程④	地域診断の視点
第 6 回	地域診断の展開過程⑤	健康課題の要因・背景、健康課題の抽出
第 7 回	地域診断の展開過程⑥	地域における健康課題への解決策
第 8 回	地域診断の展開過程⑦	優先順位の考え方
第 9 回	地域診断の展開過程⑧	保健事業計画・実施・評価
第 10 回	行政機関における地域看護活動	自治体での保健師活動
第 11 回	学校における地域看護活動	学校保健の目的、養護教諭の職務
第 12 回	産業における地域看護活動	産業保健師の役割・専門性

第 1 ～ 11 回：毎週木曜 I-III 限 第 12 回：木曜 II-III 限

区分名： 看護実践の応用となる科目

科目名（英語名称含む）：健康障害をもつ高齢者の看護Ⅰ（Gerontological NursingⅠ）

教員名：佐々木千佳、坂本祐子、齋藤史子、杉本幸子

開講年次：1 2 3 4年次，学 期：2019年度 前期後期，必修／選択：必修選択

授業形態：講義演習実習，単位数：1単位，時間数：15時間

概要：高齢者の健康とQOLの維持・向上のための支援に必要な基本的な看護の知識と技術について教授する。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標：高齢者の健康とQOLの維持・向上のために、加齢変化による生活機能への影響を学び、看護援助に必要な知識と基本的技術を理解する。

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である

4)	法令等の規範遵守	① ②	<p>① 個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。</p> <p>② 各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。</p>	—	習得の機会がない
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	① ② ③ ④	<p>① 看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。</p> <p>② 看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。</p> <p>③ 独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。</p> <p>④ 自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。</p>	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	① ② ③ ④	<p>① 人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。</p> <p>② 人々の社会的背景を理解して尊重することができる。</p> <p>③ 看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。</p> <p>④ 望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。</p>	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
2)	チームでのコミュニケーション	① ②	<p>① 人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。</p> <p>② チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。</p>	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない

		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	習得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	—	習得の機会がない
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備え	①	看護実践の応用となる科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認
		②	看護の実践		

	た看護専門 職者	③	看護を統合する科目		定の要件で ある
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を 実践することができる。					
1)	人々のニ ーズに基づ いた看護の 実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活 を取り巻く環境の観点で捉えることが できる。	●	実践の基盤 となる知識 を示せるこ とが単位認 定の要件で ある
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・ 医療・福祉制度や関係機関の機能と連携に ついて説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにす るために、必要な情報を収集し、アセスメ ントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計 画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健 康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の 専門職と協働して、人々がその健康問題を 解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ること ができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既 存の社会資源の改善や新たな社会資源の 開発、フォーマル・インフォーマルなサー ビスのネットワーク化、システム化の重要 性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護 専門職者としての役割を果たすことができる。					
(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明で きる。					

1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	習得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	習得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	習得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

テキスト：

1. 鳥羽研二, 他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ老年看護 病態・疾病論（第5版）医学書院
2. 北川公子, 他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ老年看護学（第9版）医学書院

参考書：

1. 山田律子, 他：生活機能からみた老年看護過程、第3版, 医学書院
他、講義の中で提示する。

成績評価方法：筆記試験を行う。出席時間数が全授業時間数の3分の2未満の者は試験を受けることができない。

その他（メッセージ等）：高齢者に関心を持ち、理解しようという気持ち大切です。皆さんの大切な人も、皆さん自身も、必ず通る道を豊かに歩んでいくための支援を一緒に考えましょう。

授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	老年看護の定義・理念	老年看護の理念と目標
第2回	人口の高齢化の現状・ 老年期の健康概念①	高齢者の発達的特徴
第3回	人口の高齢化の現状・ 老年期の健康概念②	超高齢化社会と社会制度
第4回	高齢者のヘルスアセス メント①	老年看護におけるヘルスアセスメント 生活機能のアセスメント
第5回	高齢者のヘルスアセス メント②	ヘルスアセスメントの基本
第6回	高齢者の生活と看護① 生活環境	高齢者の暮らし 社会参加
第7回	高齢者の生活と看護② 食事①	食生活を取り巻く環境 食生活への支援
第8回	高齢者の生活と看護③ 食事②	低栄養 脱水 食事に関するアセスメントと看護
第9回	高齢者の生活と看護④ 清潔①	清潔の意義と健康問題
第10回	高齢者の生活と看護⑤ 清潔②	清潔に関するアセスメントと看護
第11回	高齢者の生活と看護⑥ 生活リズム	生活の多様性 生活リズム
第12回	高齢者の生活と看護⑦ 活動と休息	活動の意味 高齢者の睡眠変化 睡眠に関するアセスメントと看護